

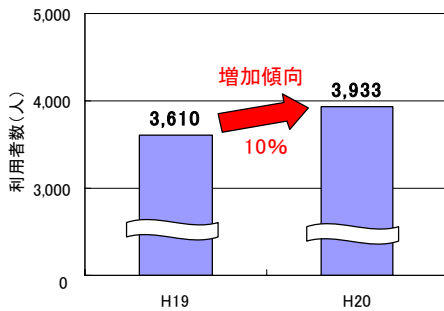
＜整備効果＞

1. 沿道活性化への寄与

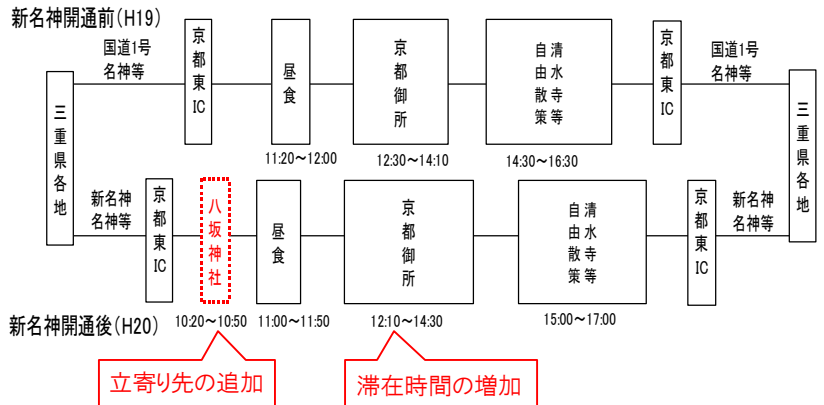
1) 観光バスツアーが好調

- ・新名神高速道路利用のツアーでは、新名神への経路転換により、時間短縮が図られ、ツアーの立寄り先の拡充が図られています。
- ・三重県から京都方面への日帰りバスツアーのうち、新名神に利用経路を変更したツアーの利用客数を見ると、全体として増加傾向にあることが確認されました。

◆ Aバス会社「三重～京都」の利用客数
(3月～7月の合計値)



◆ 京都日帰りツアーのコース設定変更の事例 (Aバス会社)



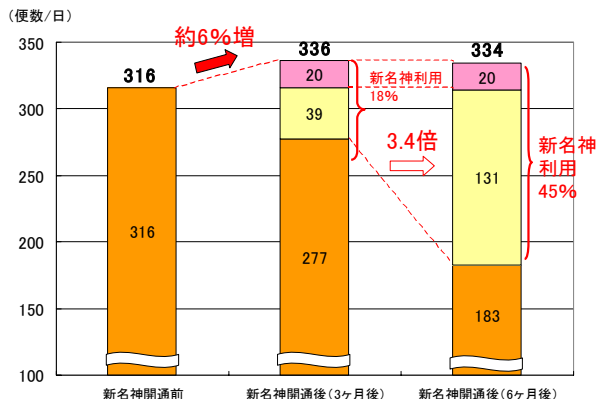
- ・新名神の開通で伊勢方面への旅行客も増加しています。
- ・新名神の開通により、新たなバス路線を開設することが可能となりました。

(A旅行会社)

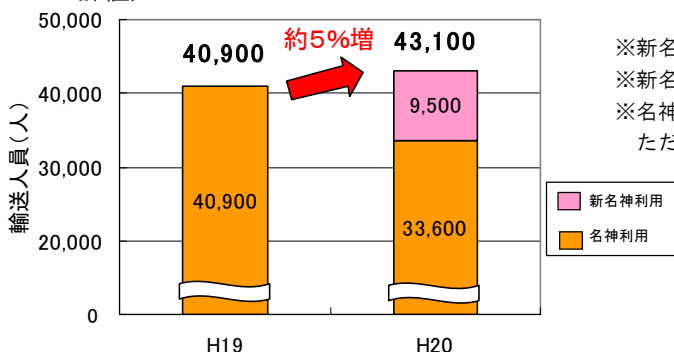
2) 新名神利用の高速バスの利用客数の状況

- ・新名神高速道路の開通後、名神高速道路から新名神高速道路へルート変更したバス路線は、全体の約45%に達していることが確認されました。開通3ヶ月後と比較して、約3.4倍になります。
- ・名神高速道路から新名神高速道路に利用経路を変更したバス3会社の路線では、利用客数が約5%増加していることが確認されました。

◆ 高速バス便数の変化



◆ 名神から新名神に利用経路を変更したバス3会社の路線での利用客数の変化(4月～6月の合計値)

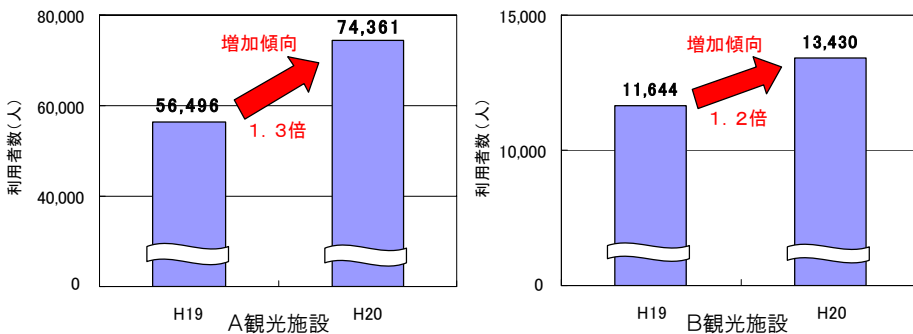


※新名神開通前：高速バス時刻表 2007 秋・冬号データ
 ※新名神開通後：NEXCO西日本調べ(バス会社への電話ヒアリング)
 ※名神 草津JCT～瀬田東JCTを通過する高速バス路線を対象とする。
 ただし、北陸道、東海北陸道、伊勢道、岐阜発着便を除く

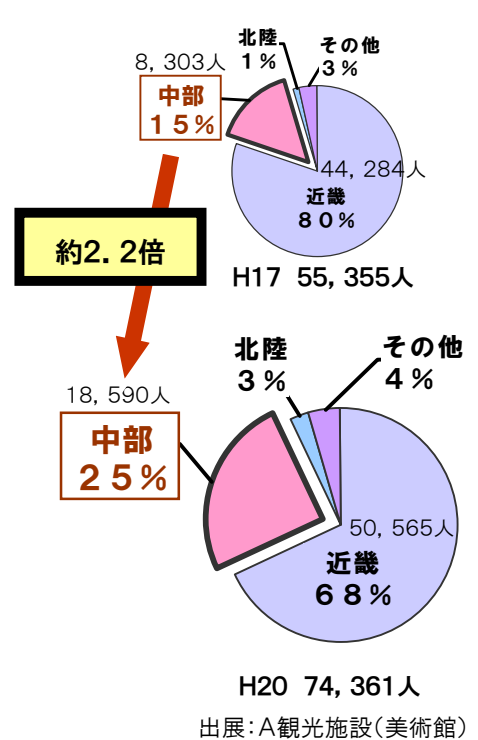
3)沿線観光施設の観光客が増加

・新名神高速道路開通区間の沿線観光施設の入り込み客数が増加傾向にあることが確認されました。
 ・地域別では、特に中部圏からの観光客が約2.2倍に増加しており、広域的な交流が活発化しています。

◆観光施設の来客実績（3月～7月の合計値）



◆A観光施設の地域別来客実績



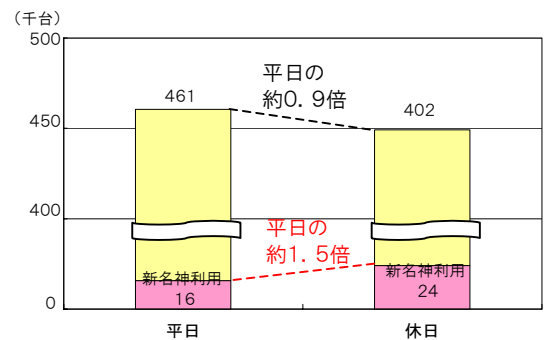
- ・新名神高速道路(甲賀土山～亀山J)約29千万台/日のうち、約7割が東名阪道、伊勢道^{※1}、伊勢湾岸道のインターチェンジを利用して^{※2}。
- ・東名阪道、伊勢道、伊勢湾岸道の全ICの出入交通量は、休日において平日の約0.9倍であり、平日交通の方が大きいですが、新名神高速道路を利用する交通では約1.5倍であり、逆に休日交通の方が大きくなっています。
- ・東名阪道 鈴鹿ICが最寄りとなるC観光施設のゴールデンウィークにおける駐車場利用調査では、新名神高速道路を経由する滋賀、京都、兵庫などからの利用が伸びています。

◆新名神高速道路と東名阪道、伊勢道、伊勢湾岸道間の交通動向

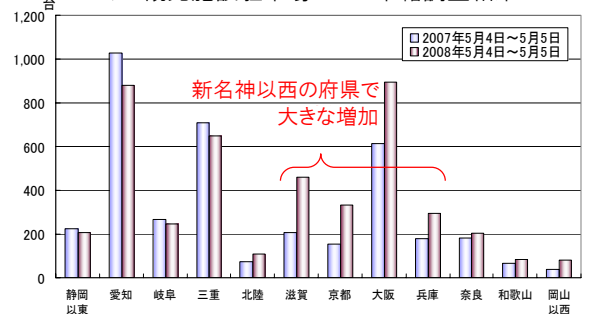


※1 伊勢道には紀勢道を含む
 ※2 交通量はH20.3～H20.6までの平均値
 ※3 名古屋周辺: 東名阪道、伊勢湾岸道の愛知県内のIC
 ※4 北勢地域: 東名阪道の三重県内のIC
 ※5 中・南勢地域: 伊勢道のIC
 ※6 四捨五入の関係で交通量の合計が合わない場合がある

◆東名阪道、伊勢道、伊勢湾岸道の総IC出入交通量



◆C観光施設駐車場のGW車籍調査結果



出典: C観光施設ヒアリング

2. 新名神高速道路を利用される企業の声

1) 企業活動の支援

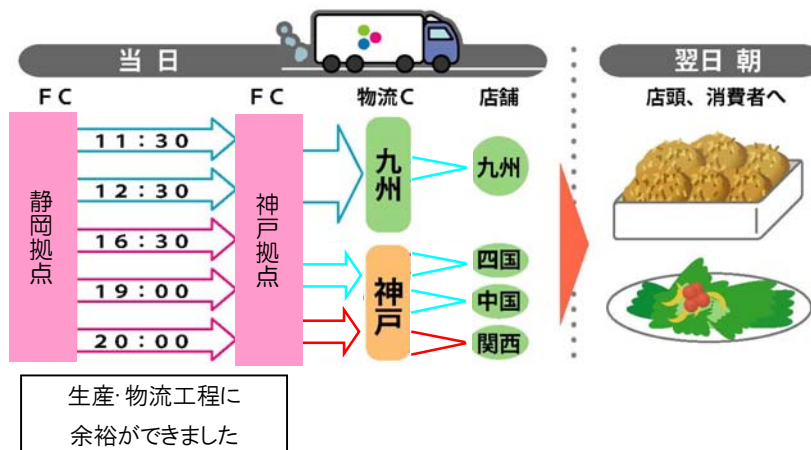
・新名神高速道路の利用による輸送時間短縮や新名神高速道路・名神高速道路のルート選択により、輸送の定時性が確保でき、企業の生産活動に貢献しています。

◆生産拠点間の輸送経路の変化



- ・当社では、磐田と神戸で異なる惣菜を生産しており、拠点間で相互に集荷した後、全国の物流拠点に配送しています。
- ・翌日に店頭に並べることを基本としており、店舗数が拡大し、生産工程に余裕がほとんどありませんでしたが、新名神高速道路を利用することにより、約20分の輸送時間短縮となり、生産・物流時間に余裕が生じ、トータルの定時性を確保できるようになりました。
- ・特に生産拠点間では毎日10便が新名神高速道路を利用していますが、名神高速道路ルートを選択できることで、行楽や帰省シーズン等においても交通状況に適宜対応できるようになりました。
- ・名神高速道路ルートでは、年に2～3回ほど渋滞により九州地域への遅延があったが、新名神高速道路へのルート変更後は遅延がありません。(A惣菜メーカー)

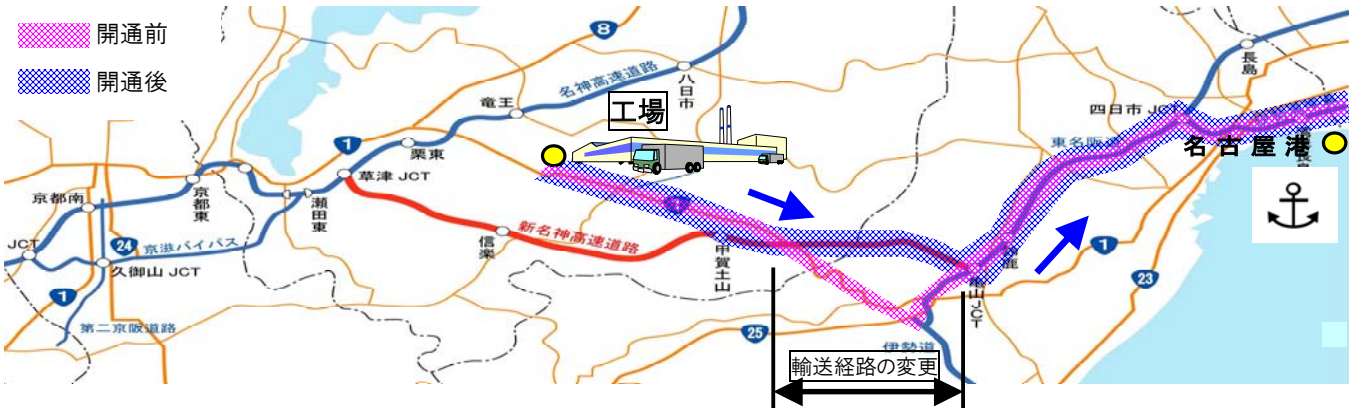
◆輸送タイムスケジュールの事例



2) 安定走行、代替路の確保

・新名神高速道路の利用による安定走行が、精密機器等の輸送に貢献しています。

◆精密機器の輸送経路の変化



(甲賀土山～亀山間)

新名神開通前: (国道1号)利用

・信号による加減速、急勾配の坂 ⇒ 精密機器の輸送に悪影響

新名神開通後: (新名神)利用

・新名神の利用 ⇒ 精密機器の安定走行を確保

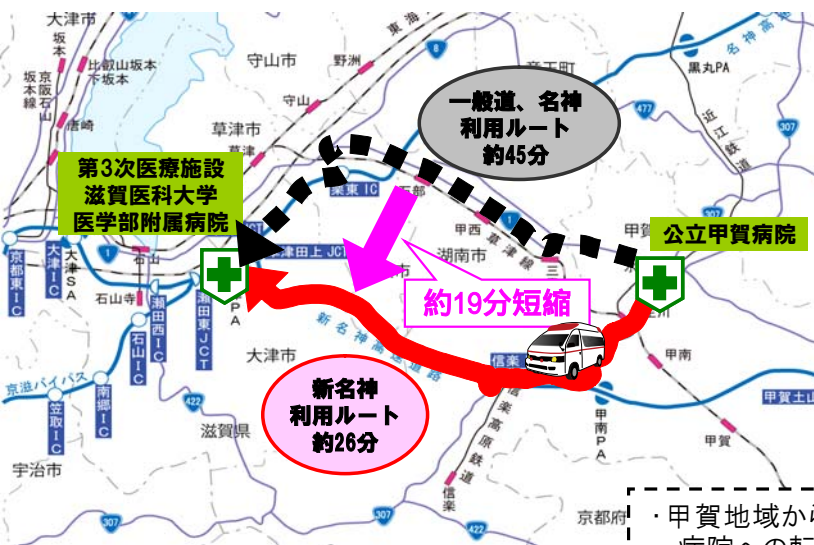
・高品質化で製造品の価値は昔の3倍になっており、精密機器の輸送には、安定走行が欠かせませんが、新名神の利用で、精密機器への影響を回避した輸送が実現しました。

・また、交通事故や異常気象による通行止め時に輸送ルートを選択肢が増え、確実に輸送できるようになりました。
(A精密機器メーカー)

3. 救急医療への寄与

・新名神高速道路の利用により、甲賀地域から大津市等への医療機関間の搬送時間が大幅に短縮され、地域の救急医療体制の支援に貢献していることが確認されました。

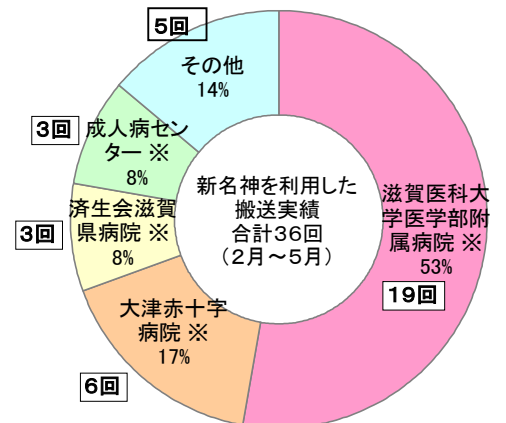
◆公立甲賀病院～第3次医療施設滋賀医科大学医学部附属病院への搬送所要時間の比較



※所要時間は道路時刻表および規制速度に基づき算出。

※上図は、新名神を利用した搬送実績(甲賀広域行政組合消防本部、2～5月)が最も多かった発着地を例にとり所要時間比較を行ったもの。

◆甲賀地域から大津市等の病院への新名神を利用した搬送実績



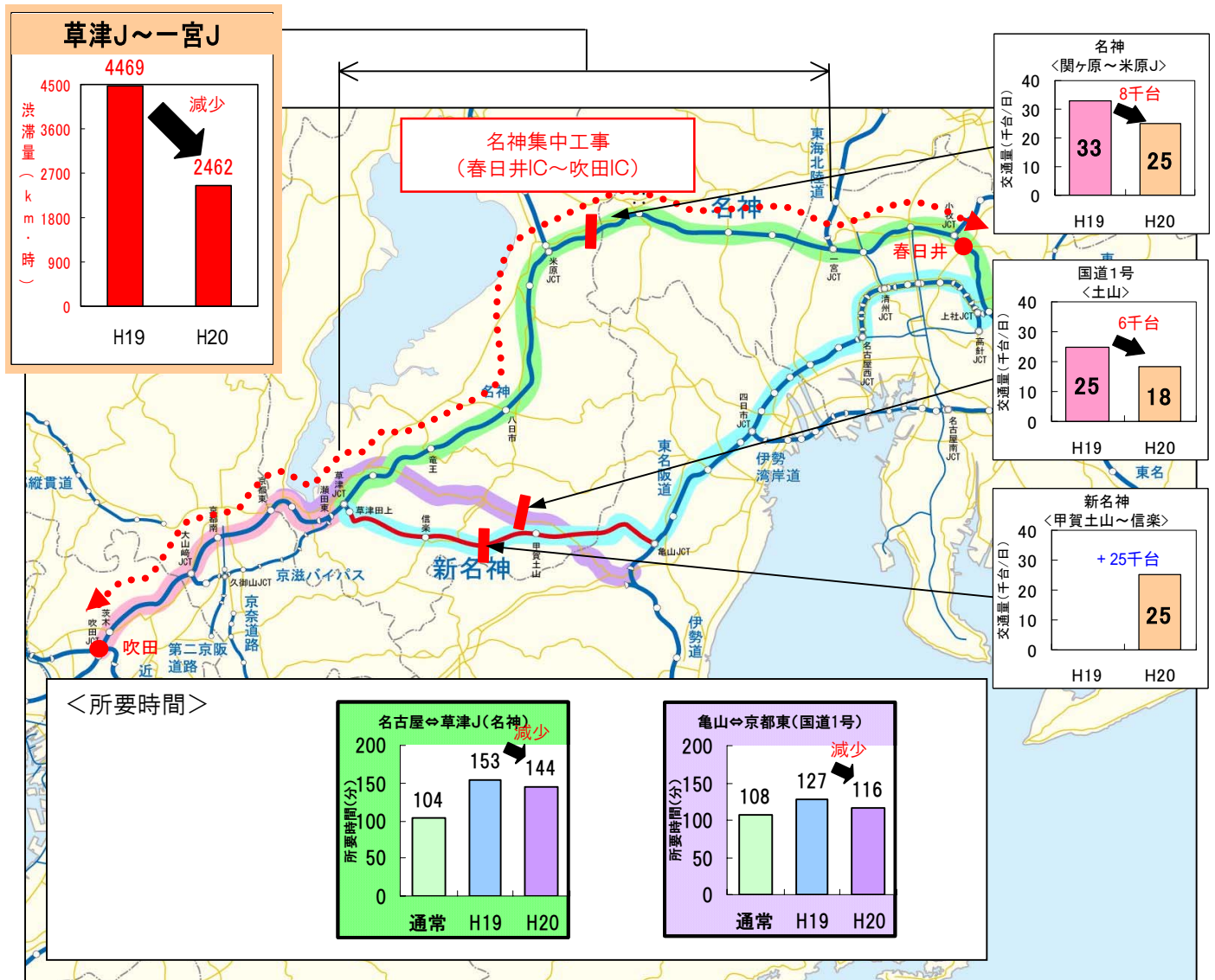
※第三次医療施設

・甲賀地域から救急重篤患者の滋賀医科大学医学部附属病院への転院搬送においては、搬送時間がかなり短くなっただけでなく、振動や加減速が少なくなったため、患者への負担も小さくなっています。(甲賀広域行政組合消防本部)

4. 名神高速道路の代替機能の発揮

平成19年度と平成20年度の名神集中工事期間の交通量、渋滞、所要時間(新名神開通後の変化)

- ・名神集中工事期間中、名神高速道路の草津以東と国道1号で交通量が減少しており、新名神高速道路への転換が図られています。
- ・新名神高速道路開通により、名神集中工事期間中の名神高速道路 草津JCT以東の渋滞が減少していることが確認されました。
- ・新名神高速道路の開通により名神高速道路の名古屋～草津間の所要時間が短縮されているとともに、新名神高速道路と並行する国道1号の亀山～京都東間の所要時間も短縮されています。



H19【新名神開通前】：春日井IC～吹田IC昼夜連続車線規制 平成19年5月21日(月)AM5:00～6月2日(土)AM6:00

H20【新名神開通後】：春日井IC～吹田IC昼夜連続車線規制 平成20年5月12日(月)AM5:00～5月24日(土)AM6:00

大津IC～京都南IC夜間通行止めを実施 平成20年5月12日(月)～5月23日(金)PM8:00～AM6:00 (12夜間)

※集中工事期間中、車線規制区間、規制車線数等は変動している場合があります。

※高速道路の所要時間は、交通量計測装置等による計算値。

通常：速度80km/hでの計算値、H19、H20：集中工事期間の計算値

※一般道路の所要時間は、実走による計測値。(実走とは、周辺の交通の流れに沿って走行すること)

通常：平成20年5月28日(水)、H19：5月23日(水)(集中工事期間中)、H20：5月14日(水)(集中工事期間中)に調査(7時、11時、15時、19時に走行開始)

※渋滞量：渋滞の規模を示す指標([最大渋滞長]×[渋滞時間]/2)